



とろんの (太一や) 通信

一結の章

火と幟があれば、祭りは始まる!!!

らなる「竹取り物語」風景が産まれてくれると、もう、サイコーMAXしあわせアリガトー♪

本番までにひとりでも多くのひとが(月の村)と遭遇感応し、ひとりでも多くのひとが、さらなる「竹取り物語」を産み出しながら、本番2月22日へと突入融合していききたいものだ。

祭りは、すでに、始まっている!!!

(うちゅう)というイキモノが、いま、風の時代に突入し、(地球)をもて遊ぶ。

そんな(うちゅう)に向けて(地球)から飛び、翔びゆく最先端ロケットのように、絶妙なタイミングでいらぬものを捨て放ち、研ぎ澄まされたイノチの最先端の(アナタ)や(ボク)が、う!!!と(うちゅう)空間に突入融合してゆく。

これは、まるで、精子と卵子、男と女の生命誕生のエクスタシー!!!

(たましいのかくじっけん)という名を、なぜ、ボクはつけたのか??

起承転結の流れの中で、結、(たましいのかくじっけん)第四弾の試みの中、其の後で、ん!!!と、それが露わになってくるのだと想う。

半世紀ほど前に、(決定的な女神)から(とろん)と命名された瞬間、ボクの運命は決定づけられ、ボクはこの(とろん)というウツクシイ響きに向かって突き動かされてきた。そして今、ようやくボクは(とろん)という名と融合し、ボクの人生の(つじつま)が合い、過去と今と未来が融合してきたのだから。

この(決定的な女神)の三十回忌が、2022年3月15日で、たまたま必然、(たましいのかくじっけん)第四弾の22日目で、最終日なのだ。

またもや、吊いとお祝いが融合してゆく。

本番、2022年2月22日に向けて、これまでに(たまたま必然)的に遭遇してきたオモシロイひとたちを祭りへと誘惑してきたのだけど、果たして、どれだけの面々が、この真冬の山中にやってくるのか? これるのか??が、今一番のタノシミ。

唄い舞い描き創り造り売り奉納するひとたち、そして居るだけで安らぎ元気をもらえ、おもしろくっておかしくってHAPPYにしてくれるひとたち。

ひかりのもちより、大歓迎 & 大集合!!!!!!

祭りスタッフもプログラムも一切なく、(ひかりのもちより)と(おおいなるなりゆき)で始まり、変化展開してゆく、

風の時代!!!!!!!!!!!!!!

ふるくってアタラシイ、いのち命イノチの風が巻き起こる(月の村)風景

ともかくも真冬の祭りなので、自分と自分の家族を守り放てるだけの衣食住心の旅支

度をし、覚悟してこの岡山の山中の聖地を目指してきてくださいね。

道と場、(道場)開きをしてお待ちしております。

前代未聞の(実験状況劇場)の、はじまり、始まり!!!

あとは、野となれ花となれ♪

もうすぐ71歳になる、少年とろんより。

PS.

世界的アーティスト(みやけのりこ)が、パリへ旅立つ前にこの(たましいのかくじっけん)第四弾に参加表明し、昨年12月24日(金)クリスマスイヴから太一やで作品展を開始しています。祭り期間中も展示販売し、春、帰国するまで続行していきます。

そして、この(みやけのりこ)とともに、戸田貴子(ダンサー)、平井真紀(創り手)が、三位一体で、祭りに向けて幟九本を創作!!!!

火と幟があれば、祭りは始まる!!!

そして、(たましいのかくじっけん)第一弾から毎回参加してくれている知久寿焼(EX. たま)、第一弾に参加した神田さおり(踊絵師)、第二弾に参加したSHREEさん、ひで&あすか(EX.ムーンビレッジ住人)、そして初参加の佐野真紀子(即興アーティスト)、遠藤暁及&馬場山往(希望の火)、ACHICO(火巫女)、宗田悠(地球音楽士)、なな(たましいのかくじっけん)の言い出しっぺ、米本久美子&蛹(絵本作家&マルチアーティスト)、乙倉俊(beZen 鼓空)、タナカ(神様の言の葉)、こめだちづる(舞の手)、DJムーキーなどなども、次々に参加表明してきている。(2021年11月26日時点)

祭りは、すでに、始まっている!!!



建設中の「月の塔」→

↑はるか作のポスター

いよいよ「結」の章、2022年!!開けましてお芽出とうございます。

この一月末に71を迎え、そして2月22日(火)から22日間の祭り(たましいのかくじっけん)第四弾が、岡山の山中で始まります。この真冬から春への22日間の祭りは(月の村まつり)とも呼ばれ、「ひかりのもちより」で始まり変化展開していきます。

「火と幟があれば、祭りは始まる!」と言い切っていた旧友アーティスト(春のうらら)が逝って、もう11年に成ろうとしている。11年前の3月11日、巨大津波による原発崩壊直後、群馬から福岡まで軽トラックで逃げ、安堵の湯舟のなかで、3月21日、春分の日、あ!と逝ってしまった。

今年の春分の日、3月21日、たまたま必然、(うらら)の12回忌が(太一や)七周年に当たるので、吊いとお祝いを融合させ、この祭りの「画竜点睛」にしてみたい。

(春分祭)など、ボクが最も腑に落ちた祭り風景を展開していた(春のうらら)が、生前ボクに放ち伝えた「火と幟があれば、祭りは始まる!!!」というイノチ命いのちの遺言風景を、今、岡山の山中で試みようとしているのだ。

この七十年間、「もうダメかもしれない!」と諦めの極みの中、あ!と女神たちがボクの前に浮上し、何度も何度もイノチを救われ、そして12年棲んだタイから日本へ移住後、「もう村づくりや祭りなど、うんざりだ!!!」という極みの中、譲り受けた3300坪の山中で、世にも美しくもキレイな源流の沢風景と遭遇し、またもや(村づくり)への三度目の意欲が沸き起こり、火と幟風景が浮上してきたのだ。

そして今、広大な大自然に圧倒されながらも、そこに棲み暮らしている鳥や虫や蛇や獣たちや、ありとあらゆるイキモノたちに囁かれ鼓舞されながら、この70歳のヒト科の全細胞が、長年封印されていた(月の村)を切り開こうとしている。閉じられた山の(道)を切り進め、隠された「場」を切り開いてゆく只中。道と場を開く、(道場)開き、の只中。

昨年11月の新月に刈った竹や矢竹が、今、JOMON(風のトイレ)BYもりとくらし(杉本圭子)、(月の塔)BYジュピタリアン(山の内芳彦)、へと変化展開し、初代「竹取り物語」が産まれ、2月22日の本番に向けて、さ

